

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301893		
法人名	株式会社 あいの里		
事業所名	グループホーム あいの里 吉		
所在地	福島県郡山市片平町新蟻塚80-1		
自己評価作成日	平成28年11月19日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方にとってここが住みやすい場所だったり、落ち着く場所、安心できる場所になれるように、入居者の方を中心とした生活を考えている。まるで家にいるかのような過ごしやすさを感じて頂ける様に目指している。一人ひとりが、「働いている」「生きている」力を最大限に活かせる生活、五感を感じて頂ける生活、四季を感じられる生活、を目指して、日々取り組んでいる。また、かかりつけ医師、認知症専門医、訪問看護師と連携を図り、その方が最後まで自分らしく生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. グループホームに求められる馴染みの暮らしとその人らしい生き方を基本に、家庭の雰囲気の中でゆったり穏やかに、利用者一人ひとりが能力に応じた役割(料理・掃除・買い物・畑仕事等)を持って生活できるよう支援している。
 2. 事業所行事には近隣にチラシを配布し多くの住民の参加が得られている。行事に参加した小学生が学校帰りに立ち寄ったり、日常的に近所の方がお手伝いボランティアとして訪れている。また、利用者地域行事へ参加する等、地域との交流が積極的に行われている。
 3. 職員の研修会への参加や資格取得については、法人としての支援があり職員の働く意欲の向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一つ一つの言葉の意味を理解するために言葉を分解し、一つ一つの言葉を意味を考え、代表からスタッフまで全員で理念を共有し、実践につなげている。毎月の全体会議で復唱をおこない毎月、理念につなげるために具体的目標を掲げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を實踐できるように毎月、目標を策定して、事務所に掲示している。毎月、全体会議の冒頭に全職員で理念を唱和し、共有しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶を基本とし、近隣の方や通行人との会話や挨拶を通じ植物の苗や野菜を頂いたり昔ながらの近所付き合いなど行っている。また、敬老会で地域交流を行ったり、学校帰りの子供たちの休憩の場としても提供している。	地域行事(うねめ祭り等)に利用者と参加したり、散歩の際に近隣の人と挨拶を交わしている。また、事業所の夏祭りの際、チラシをポスティングし、地域から大勢の参加が得られている。日常的に傾聴・お手伝い等のボランティアを受入れする等、地域交流が積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などにボランティアの方や民生委員の方の疑問などに返答している。また、地域の小学生に足を運んでもらい、入居者の方と交流・ふれあいを通じ、認知症の方の理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ご家族の方へ通知をし、誰でも参加して頂ける様に広く参加を促している。また、会議等で意見交換を取り入れ、参加メンバーより率直な意見が聞けるようにしている。	運営推進会議は定期的に開催され、事業所の現況・活動・事故・ヒヤリハット・評価結果等の報告をし、会議のメンバーから意見を頂き、サービスの向上に活かしている。会議録への委員の名前の記載方法について、メンバーの意見を取入れて変更した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスを提供するときわからない事があれば市や地域包括センターに連絡し相談している。また、月2回の市の相談員が来所しケアについて話し合っている。	市の担当者へは介護保険の更新手続きや不明点等の相談をしたり、生活保護受給者の手続きや報告・相談をし、市の生保担当者が事業所を訪問している。その際、事業所の運営状況の報告や市からの情報提供等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない、日中は自由に入出りできるようにし、見守りや目配せなどを行い、身体拘束をしないケアの努めている。	玄関を含め掃出し窓が多数あり、利用者が自由に戸外に出られる環境となっている。玄関の施錠は、夜間の防犯目的以外には行われていない。見守り・寄り添いで対応し、認知症の利用者が落ち着いて生活できるよう支援している。言葉による抑制防止にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修や会議等で話し合いを行っている。また、虐待が見過ごされないようにスタッフ・ご家族の方と話す機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居されている方で、成年後見制度を利用している方がいるため、その都度、スタッフと制度について話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更点があった際は、必ず通知している。また、運営推進会議等にて説明を行い、同意書を頂き理解・納得を図っている。わからない点があれば、いつでも質問できるように連絡場所・人等を明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見や要望等話せる場を設けている。また、会議録などに記録を残し、運営やケアに反映できるようにしている。	毎日、利用者に夕飯への要望を聞き、取り入れている。家族からは家族来訪時に意見や要望を聞き、出された意見や要望を検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、全体会議、ユニット会議、その他話し合える場を設けている。	職員の意見や要望は全体会議・ユニット会議・個別面談・日常業務の関わり等で把握し、事業所や法人で検討し、取入れている。また、持っている資格毎に必要な研修会に出られるよう、法人として資格応援制度が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に、管理者・主任・各職員の3人で良かった事・反省・来年度についての目標等を話し合っている。その際、会社への要望を聴き代表に話しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合った研修や、管理者・主任が学んで来て欲しい研修等に参加している。又、研修後は会議等で報告会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、同業者との交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報収集に基づき職員が話し合い入居者様い寄り添い入居者様の想いが叶うように心がけケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会に来所された時に職員も一緒に会話の時間を設け情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様の願いに一步でも近づける様、職員で話し合い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が一緒に出来る事を考えその時間の関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された時、入居者様との時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の大切にしている場所、人との関係が途切れない様に支援している。	利用者の家族・知人・友人等の面会の際は、お茶を出しゆったり話ができるよう配慮している。また、利用者は、帰宅・墓参り・外食・温泉等、家族と馴染みの場所に出かけたり、友人と知人宅に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や家事を一緒に行える入居者様、買い物に出掛けられる入居者様に気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの想いを大切に、チーム全体で話し合い支援している。	日常ケアの中での些細な会話から利用者の意向把握に努めている。困難な場合は表情や仕草等から察したり、家族から意見や情報を得て、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ファイルにて、スタッフが情報共有出来る様になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、体調管理・食事量・排泄チェックを行っている。又、一緒に生活して行く中で出来なくなっている事(家事など)も知る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の担当スタッフがモニタリングを行い、それを元に計画作成担当がケアプランを作成している。	利用者・家族の思いや利用者の身体状況の変化をもとに、担当者がモニタリングを行い、ユニット会議での職員の意見を取入れ、計画作成担当が介護計画を作成している。定期的に計画の見直しを行い、状況変化時は随時見直しを行い現状に合った計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活記録シートにて記載している。1日2回の申し送りでも情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、要望に一步でも近づける様チーム全体で努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や外出で暮らしの楽しさを感じて頂ける様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診・受診を行い、連絡・相談が出来る様な体制を取っている。	利用者・家族の希望に沿った医療機関を受診している。通院は家族対応としているが、家族の都合により事業所で送迎支援を行う事もある。また、協力医による往診と緊急時の24時間受診体制もある。受診結果は家族との相互連絡により共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来所時には、健康チェックを行い緊急時には24時間連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはほぼ毎日面会に行き、病院の関係者からの情報を伺い把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・主治医との話し合いで今後の方針を決めている。	入居時に事業所の「重度化対応・終末期ケア対応指針」により説明し、理解と同意を得ている。また、終末期の対応については、医師・家族・事業所が連携し話し合い、方針の共有と同意を得ながら家族等の意向に沿った看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時には消防職員の立ち合い・指導を受け行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回(うち2回は自主訓練・2回は消防署立ち合い)、職員・入居者様と共に訓練を行っている。又、チーム内でグループラインを作り職員との情報交換も行っている。	消防署の指導を得ながら、夜間を想定した火災・地震の避難訓練を実施している。自主訓練で通報訓練及びAED操作訓練を実施しているが、地域との協力体制は築かれていない。非常用備蓄品は食料や水、暖房機器、シート等が準備されている。	火災・地震・風水害などあらゆる災害を想定した訓練を数多く実施し、職員が利用者を避難誘導できるよう実体験を積んで欲しい。また、地域住民等との協力体制の整備を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合った声掛け・関わりを行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや態度など、事業所内で使ってはいけない具体的な事例を明文化し、研修などを通して尊厳ある対応を徹底している。また、書類などは施錠出来るロッカーで管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを理解し、自己決定出来る様に声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身の好みに合った服装、又は、行事の際にはおしゃれや化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の買い物から調理・盛り付けと一緒に、食事の後片付け・洗い物も一緒にやっている。	利用者と職員が食材の買い出しを行い、下処理・調理・盛りつけ・後片づけ・食器洗い等、利用者の持っている力を発揮して頂き、共に食卓を囲み楽しい食事となるよう支援している。また、卓上で鍋・お好み焼き・ホットケーキ等を皆で作って食事を楽しんでいる。誕生日は希望食を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の多い入居者様・少ない入居者様、食事時間以外に希望される入居者様、それぞれに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に声掛け、行えない入居者様にはスタッフがやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な入居者様には定時のトイレ誘導を行っている。尿取りパットやリハビリパットを使用されている入居者様には尿取りパットの当て方を工夫している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草・行動等から推察し、一人ひとりに合わせた声掛けとトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んで頂いたり、腹部マッサージを行ったりしている。又、訪問看護師に相談もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	何時でも入浴出来る様に準備をし入れる様にしている。声かけを行って入浴して頂く。入居者様と気が合う職員が行っている。	男性職員が多いが、利用者の意向を取り入れ、同性介護にも配慮し、利用者の希望に沿った入浴支援を実施している。朝風呂、夜間入浴など、一人ひとりの希望やタイミングを大切にしている。入浴を拒否する方には、入浴時間帯や対応職員を代えるなど工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて休憩時間取って頂いている。夜間も巡視に気付かれた入居者様には時間を伝え休んで頂く様、声掛けを行っている。又、身体を休める為に、お昼寝の時間を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変化がある場合、その都度申し送りです。スタッフ全員共有している。症状の変化は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様それぞれに出来る事をスタッフと一緒にやっている。イベントやドライブに出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年6月に入居者様・ご家族様・地域の方々・職員とで一緒にバスに乗り小旅行を行い楽しませている。	毎年、名勝地や景勝地・動物園等希望に応じたバス旅行を利用者・家族・運営推進委員等の参加を得て実施している。花見や祭り、初詣など季節に応じた外出と、家族や友人との外出・外食に出かけ、日常的には買物、ドライブ、散歩などの外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない。又、契約時お金の預かりについては行っていない事を伝えている。ご家族様には入居者様に渡さない様お願いしてある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望で何時でも電話が出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくホーム内での日向ぼっこも出来る様に配置している。イベントが予定される際にはリビングにわかりやすく掲示している。	壁面には共同作品や写真が飾られ、利用者の生け花の経験を活かした花を飾り、廊下やリビングにはソファや椅子が置かれ、その日の気分で居場所が選べる工夫がされ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・中庭にベンチを置き、過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者様それぞれ馴染みの物を持参され、居心地の良い空間を作っている。	入居時、使い慣れたテレビや家具・整理タンスを持ち込んでもらい、利用者や家族の意向を反映した居室のレイアウトにし、家族写真や遺影などを置き、壁には友人からの絵手紙を飾り安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が出来る事、わかる事をスタッフが一緒に行っている。又、出来なくなった場合、次に出来る事をスタッフで話し合っている。		